

人々の温かさに触れて

津軽森林管理署金木支署今泉森林事務所

平野陽子

Yoko Hirano

私の勤務している今泉森林事務所は、青森県の津軽半島の中央部、津軽山地の西側に位置している、中泊町(中里地域)の北にあります。

この中里地域は林業と農業の町であり、総面積の約60%が山林でそのうち約88%が国有林です。昔は青森市から旧金木町(今の五所川原市)までを森林鉄道が走り、林業の発展と共に町もずいぶん栄えたそうです。そのためか林業で生計を立てていた方が多くいらっしゃいます。また、現在でも多くの家々で薪を使っており薪炭共用林組合が存在します。

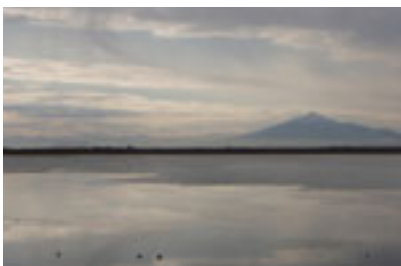
この地域の針葉樹林を中心とした山林では、スギのほか、青森県の木である青森ヒバ(ヒノキアスナロ)も生育しています。青森ヒバは、天然秋田杉、木曽ヒノキとともに日本三大美林の一つにあげられて



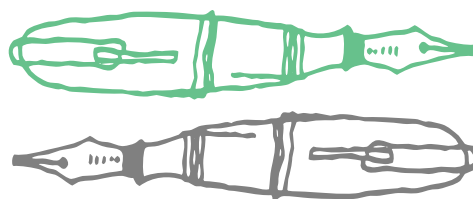
青森ヒバ林

おり、腐りにくい性質やシロアリを寄せ付けない防虫効果も高いことなどから、古来より神社仏閣等の重要文化財にも使用されてきました。また、ヒバの持つ香りには精神安定効果もあるそうです。その青森ヒバも年々その数が減少してきており、貴重な財産を後生まで残すために様々な取り組みが行われています。

さらに、森林事務所の近くには十三湖という湖があります。十三湖は、周囲が約30kmと青森県で3番目に大きな湖であり、海水と淡水が混じる汽水湖で、ヤマトシジミの生息していることで有名です。しかし、近年その数は減少し、現在では漁獲量の制限や禁漁区や禁漁期間を決めるなどして資源保全に努めています。また、この十三湖には冬になると白鳥など多くの渡り鳥が飛来してきます。



海かと思うほど広い十三湖



森林官からの手紙

国道339号線沿いのドライブインではこのシジミを使ったしじみラーメンが食べられますので、バードウォッチングも兼ねて一度おいでになりませんか。

ところで、津軽地方では「雪が下から降ってくる」と言われるように、冬になると、強い北西の季節風と一緒に地吹雪が発生し、人々の交通や生活に大きな影響を与えています。地吹雪が起こると白い画用紙を貼ったようにすぐ近くさえ見えないほどだと言います。

この地吹雪を少しでも和らげ視界をよくするためにあちこちで防雪柵を見かけます。防雪柵があるところと無いところでは道路の状況が全然違うのを感じ、防雪柵の有り難みを実感しています。11月頃から防雪柵の取り付けが始まりますが、この景色を見ると冬が近づいてきたんだと感じます。



お土産・お食事処

さて、5月に赴任してきてからもう9ヶ月が過ぎようとしています。初めての土地、初めての仕事、初めての現場であつという間に月日が流れました。職場の方々や地域の皆さんに支えられながら何とか日々の業務をこなしてこれたかなと思います。

地域の方々が、なにもわからない私を「主任さん、主任さん」と声をかけて下さり、温かく迎えて頂いたことに深く感謝しております。

森林官として未熟な点が多々あり、反省の日々ですが、より近くで地域の方々と接することの出来る今の仕事は、何物にも代え難い貴重な経験と勉強が出来る良い機会であると感じています。

これからも地域の声に耳を傾け、つながりを大切にしながら地域に根ざした森林官になれるよう日々努力していきたいと思ひます。



冬になくならない防雪柵